

## 札幌農学同窓会東京支部 2024 年度総会における講演会の報告

日時:2024 年 2 月 17 日(土)13:30~14:45

場所:TKP 東京駅カンファレンスセンター (並びにオンライン)

講師:曾根輝雄先生、北海道大学大学院農学研究院教授 (北海道ワイン教育センター長ほか兼任)

演題:「地域のサステナビリティ向上のためのワイン教育研究」

2024年2月の総会にて、北海道大学大学院農学研究院教授の曾根先生に、北大におけるワイン教育についてご講演いただきました。先生はご実家が酒屋だったこともあり、大学入学当時からワインにご興味があったが、学生時代、興味は封印し他の微生物研究に進むも、2015年に米国カリフォルニア州の UC Davis のワイン塾と出会い、封印が解けてワイン研究に進まれた。ワインは「テロワール(産地の特性)」を楽しむもので、ご自身でカリフォルニアのナパバレーのテロワールを楽しむ機会を得て、北海道でぜひワイン産業を盛り上げたいとの思いを深めたとのことであった。

北海道におけるワインの歴史は古く、1876年、札幌農学校開校の年に開拓使葡萄酒醸造所が始まったが、2000年以降ワイナリーが急増し、現在は道内64、100ワイナリーになる日も近いと思われる。2018年には、山梨について二番目となるワインの地理的表示(GI)が認められた。昨今の地球温暖化により、北海道におけるワインブドウの適地が拡大し、ピノ・ノワールをはじめとするワイン用ブドウ品種の栽培が可能となった。そこで、テロワールを楽しめる真の産地になるためにはワイン教育・研究が欠かせないとして、道庁とも連携してワイン研究を推進、2021年に道内企業やワイナリーの寄附により、大学内に寄附講座 北海道ワインのヌーベルバーグ研究室を開設、北海道の微生物テロワールの解明などの研究を開始した。

さらに、道内でワイン産業を持続的に発展させるためには、環境に配慮したブドウ栽培から醸造をへて消費者に届けるまで、分野横断的に進める必要があるとして、総合大学の利点を生かし、2022年4月に北海道ワイン教育研究センターを設立、9月には旧昆虫学教室を改修して、センターをオープンした。現在は、同時期に設立された産学連携の支援組織である「北海道-ワインプラットフォーム」と連携しながら、地域の食やアクティビティーと結びついたテロワールが集積する「北海道ワインバレー」の実現を目指しているとのことであった。

当日は残念ながら北海道ワインを楽しむことができなかったが、ぜひ、北海道に足を運び、ワインを味わいたいと感じた。

(文責: 高木)



**おわりに**

- ・北海道のワイン産業は、北海道産物の振興と輸出を求め、新しい市場を開拓する意欲が強い産業です。
- ・北海道大学は、北海道ワインブランドと力を合わせて、地域の食やアグリビジネスの発展に貢献したいという思いから、2017年10月に「北海道ワイン産業振興センター」を設立し、支援を行っています。
- ・これからも精進して参ります。引き続きよろしくお願いいたします。

